
勘弁してくれ！銀ちゃん編

2Pカラー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勘弁してくれ！銀ちゃん編

【Nコード】

N0871Q

【作者名】

2Pカラー

【あらすじ】

ギントキの名前を貰ったせいで「坂田銀時」のスペックを受け継ぐことになった転生オリス。ハルケギニアで好き勝手したいけど……。そんなお話。この作品は「転生？チート？勘弁してくれ……」のプロローグから分岐？したような、なんかそんな感じの短編です。プロローグだけでもサラって貰えるとより楽しめるかも知れません。

（前書き）

何も考えずに書きました

頭空っぽでお読みください

今日はトリステイン魔法学院に通う者にとって大切な日である。

春の使い魔召喚の儀。二年生への進級をかけて行われるテストであり、メイジにとって一生の付き合いとなる使い魔を召喚する大切な儀式のある日である。

さて、多少メタな発言をしてしまうならば、このような出だしで始まった二次創作では次の展開はある程度予想が付くだろう。

このようなネットの片隅に放置されるのがお似合いの駄作にまで目を向ける暇じ……ゲフンゲフン、読書家の皆様ならば余計に予測のつくというモノ。

そう。「才人の代わりにオリ主なりクロス先のキャラなりが出てくるんだろうな」と予想されるはずだ。

しかし残念。本作の主人公は呼び出される側ではない。現在呼び出している側である

「おい。早くコントラクトサーヴァントをやれよ」

思えば苦勞ばかりの人生だった。主人公は青い空を仰ぎながら目尻にたまる涙をのみ込む。

神さんがくれると言ったチート能力を拒否し、その代わりに「コミュニケーション」を貰い、ついでに名前を付けて貰えることになった。

全ては目立たず生きるため。死亡フラグと無縁の人生を生きるためだった。

確かにチートを拒否したのは自分だ。しかし、あの時はココまでひどいことになるとは思っていなかったのだ。

「はやくやれよ！ 『へボ』の ■ ■」

「落ちこぼれ」がこれほどの不遇を被るとは思っていなかったのだ。

生まれて十五年。杖を手にして早十年。

蔑まれ、馬鹿にされる日々だった。

出廻らしと呼ばれ、平民にすら白い目で見られていた。

何故「原作ルイズ」は壊れなかったのか。そう疑問に思えるほどハルケギニアは歪んでいた。

その上彼女は平民を召喚するのだ。今思い出せば原作でのキュルケのからかいにすら殺意が湧く。

とはいえ俺の場合は自業自得。全てチートを拒否した俺が悪いとも言えるのだが、

「コントラクトサーヴァントをやるのです。

ギントキ・ネオアームストロング・サイクロンジェット・アームストロングハウ・ド・ワルドよ」

「その名で俺を呼ぶんじゃないね——————!!!!!!」

この「名前」は無いだろ、神さんよ。

ちなみに召喚されたのは木刀でした。

キスすると「洞爺湖」のルーンが刻まれましたとも。

勘弁してくれよ

あ、ルイズはちゃんと才人を召喚してました

第一訓「天然パーマに悪い奴はいない」

「ほー。異世界からねえ」

「信じてくれるんですか？ ルイズには馬鹿にされるだけだったんですけど」

「そりやお前、目を見りゃ相手が嘘をついてるかどうかなんて分かるんだよ。それこそお前さんが真剣だってことも伝わってくるさ」

「……ギントキさん。俺、ここに来て初めて人間扱いされた気がするよ」

「まあなんだ。ほどほどに頑張りな。相談にくらいは乗ってやるからよ。有料で」

「最後で台無しなんですけど!？」

「じゃあ糖分で」

「糖分!!？」

第二訓「ペットは飼い主が責任を持って最後まで面倒を見ましょう」

「諸君、決闘だ!」

「決闘なんかより血糖値よこせよ、馬鹿野郎。甘味が足りねえんだよ。クックベリーパイよりイチゴパフェが食いたんだよ俺は」

「上等だ！ 二股かける奴なんかに負けてたまるか！」

「何熱くなつてんだよ。あー、熱々のアップルパイ食いたくなってきた。マルトーさん！」

「はわわ。サイトさん、殺されちゃう。ルイズ様を呼んで来ないと」

「おー呼んで来い呼んで来い。使い魔の不始末はご主人様に取りせろ」

「むっきゅむっきゅ」

「俺のケーキまで食べないでくれますか！！ ヒューマノイドインターフェースだからってやっていいことと悪いことがあるだろうが……！」

第三訓「ジャンプは時々土曜日に出るから気をつける」

「君らがフーケの姿を見たという「見てないっす」……」

「もう帰って良いっすか？ 俺には糖分を摂取する系のジョブがあるんだが」

「いや、フーケを目撃したという「見てないっす」……」

「ってか題名なんかなかったのかよ、作者。銀魂一巻と合わせるとか意味無い挑戦するから」

おい、やめる馬鹿 このネタは早くも終了ですね

第四訓「第一印象がいい奴にロクな奴はいない」

「なあ、ギンさん。あのワルドって」

「あー、一応俺の兄貴ってことになってるな」

「マジでか。全然似てないっすねw」

「ああ？ 天パ馬鹿にしてんのかコラ？ サラッサラのほうが偉いつてかコノ野郎？」

「いやそんなつもりじゃないですけど。それにしてもグリフォン隊の隊長でしたっけ？ なんか凄そうですね」

「たいしたことねえよ、あんな奴。俺の髪をサラサラにも出来ねえような奴だぞ。魔法ってんならソレくらいして見せろってんだ」

「どこまで天パに拘るんですか」

「誰が天パだコルアアアアアア！」

「めんどくさ！ この人めんどくさ！！」

第五訓「ジジイになってもあだ名で呼び合える友達を作れ」

「なんかフーケに襲われてるんだけど、お前、誰だっけ？ 山田

「？」

「ギーシュだよ！ 学院出るときから一緒だったじゃないか！」

「あー、ギーシュね。『寸胴』のギーシュだっけ？」

「『青銅』！！ 相変わらず失礼なヤツだな君は！！！」

「相変わらずとか言われても初対面だろ？」

「クラスが一緒じゃないか！ 学院に入る前はパーティーでも会ったことがあるし！」

「あー、糖分が切れてきた」

「聞けよ！！！！」

「私を無視するんじゃないよ！ ガキ共が！！！！」

第六訓「お前らテロなんてやってる暇があるならペロの散歩にでも行つてきな」

「トリステインは長くない。私と来い、ギントキ」

「お断りだよ、マザコン野郎。俺は俺の信念^{リール}を裏切らねえ」

「信念だと？ 魔法も使えないお前が貴族の矜持でも持ち出すつもりか？」

「そんなんじゃないよ。俺のルールなんてそんな御立派なものじゃない。」

ただ目に映る連中を守りたいってだけの話だ。

今、笑って生きていられる連中を悲しませたくないってただけだ。それをぶっ壊すってんならレコンキスタだって潰してやる。聖地奪還だって止めてやる。

たとえ血を分けた兄貴だろうが

俺の武士道^{ルル}を否定できると思うなよ」

「……そうか。あくまでも私の前に立ちはだかるか。ならば、後顧の憂いはここで断とう」

「上等！ 不出来な弟がいつまでも弱いままだなんて思ってたんじゃないぞ！」

——完——

2Pカラー先生の次回作

に御期待下さい

（後書き）

たまにはこんなにも書いてみたい。そんな思いから書きちゃいました
作者的にはギャグの練習？

むしろギャグセンスの無さを再確認したようなものかも

読者様をクスリとでもさせることが出来ているのでしょうか
感想お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0871q/>

勘弁してくれ！銀ちゃん編

2011年1月16日08時06分発行